

平成30年8月8日付【日本下水道新聞】  
水コン協 変化の時代へ提案  
＜講演会 コンサルの役割示す＞

水コン協  
変化の時代へ提案  
講演会 コンサルの役割示す

全国上下水道コンサル  
タント協会（村上雅亮会  
長）は7月27日、下水道  
展18北九州の併催企画と  
して、「下水道事業のパ  
ラダイムチェンジに向け  
て」を開催。維持管理へ  
のシフト、人口減少、経  
営難、多発する災害とい  
った今後の時代に合わ  
せて、下水道はいかに変わ  
っていくべきか、北九州  
市立大学国際環境工学部  
の安井英斉教授とNJS  
開発本部経営コンサルテ  
ィング部の西澤政彦執行  
役員・部長の講演を通じ  
た提案を行った。

冒頭あいさつで村上会  
長が「激動の時代、変化  
の中で方向性を捉え、新  
しい形をつくっていく」  
と新時代へ挑戦する意気  
込みを述べた。



村上会長

安井教授は「低コスト  
で省資源の下水処理施設  
を具現化するための限界  
設計技術」と題し、従来  
の土木工学的発想であら  
かじめ余裕を見込んだ設  
計から脱却し、今後の時  
代は化学工学的発想で  
「余裕のない」限界設計  
とすることが維持管理コ  
スト等の縮減につながる  
と持論を展開。限界設計  
に一定の余裕度を付加で  
きる技術力、その余裕度  
の根拠を説明できる技術  
力がコンサルに必要と強  
調。「過剰な数値で施設  
をつくるとコスト面で不  
利。いかに低コストで合  
理的につくるか、そして  
適正な余裕能力をいかに  
計算するかが課題」と強  
調した。

西澤部長は「下水道技  
術における多様な連携手  
法」と題し、社会資本が  
整った先進国で最も早く  
強烈的な人口減少に見舞わ  
れる、わが国の下水道は

世界的に注目されてお  
り、どのように変化して  
いくべきかを問題提起。  
今後の社会環境変化が地  
域ごとに異なる時代は、  
ケースバイケースで対応  
していくオーダーメイド  
的発想が必要と強調。そ  
の解決策として広域化・  
共同化や官民連携の重要  
性を解説しつつ、「多様  
な官民連携の推進は、民  
にはビジネスの拡大、地  
域には経済の好循環、市  
町村には公的負担の抑制  
が見込める」と意義を述  
べた。今後は下水道の持  
続のみではなく、地域貢  
献も重要で、提案力を磨  
くべきと締めくくった。